

平成30年度第1回一宮市子ども読書活動推進懇話会・
第1回子ども読書活動推進会議合同会議 会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成30年8月8日（水）午前9時58分～11時50分
- 2 開催場所 中央図書館 6階 多目的室1
- 3 出席者 懇話会委員 9名（欠席1名）
推進会議委員 14名
事務局 8名

4 議 題

- （1）一宮市子ども読書活動推進計画の成果について
- （2）その他

5 開 会 （事務局が開会を宣言）

「子ども読書のまち宣言」唱和（先導は副会長）
教育長挨拶
懇話会会長挨拶
自己紹介

6 会議録（要旨）

議事進行は、会長が務めた。

（会長） 議題1「一宮市子ども読書活動推進計画の成果について」の説明をお願いしたい。

（事務局）一宮市子ども読書活動推進計画（第3次）施策体系及び平成30年度子ども読書活動推進関連事業における取り組み状況表により施策事業ごとに事業の成果について説明。

（会長） 議題1について、子ども読書推進計画、進捗状況、目標値についてのご意見やご質問があればお願いしたい。

（委員） 予算がゼロでもさまざまな活動をし、子ども読書のまちとしてはいいと思う。小中学校読書活動支援事業予算は30年度を除いて増えているが、学校図書館の図書の維持・更新予算は減っている。即ち図書経費は減らしても、学校にたくさんの本を回す工夫をしていると思う。図書館協議会では、小さいところに読ませたい本をユニット化して置けないかという要望が出た。各小中学校に送る本は150冊が上限だが、生徒数に応じて配分し、その中にユニット化した本も入れて欲しい。もう一つは、子どもと本を結ぶために関連施設相互の意見交換・情報交換に努めるという部分だが、一宮市のすべてのエリアの小中学校や児童館、保育園等の施設を集めようとするから未実施になる。エリアごとに分けて交流会、連絡会を実施していくのがいいと思う。

（教育総務課）学校図書費の予算は年々下がってきている。図書の冊数が標準冊数の1.2倍の目標に達したので、図書費を削って老朽化したICTにかかる機器等のほうに回している。1.2という数字は維持させつつも、他の視点から学校を充実させるという意味でご理解いただきたい。

（事務局）学校の図書予算が増えない状況で、貸出条件を100冊から150冊に変えたが、予算が増えているのは、配送費が年々増えていることと関係がある。今は学校の希望で貸出をしているが、150冊の中にユニット化したものを含めるということも検討したい。

（委員） 人数の多い学校と少ない学校があるのに、一律150冊というのは、本来ありえない。比例配分的に冊数を決めてユニット化してその中に読ませたい本も入れる。

（事務局）生徒数に応じて、比例配分していくというのは理論的な話で正しいと思うが、児童数

が変動する度に見直しが必要になる。大・中・小の単位でのクラス分けなら可能だと思うので一度検討させていただきたい。

(委員) 交流会や連絡会をエリアを分けて開催すれば、全体で開く必要はない。小さいユニットで地元の図書館で会議をすれば、地域の人の要望も分かると思う。

(会長) 各図書館を中心にした人の流れを作ってみたらどうかというご提言だが。

(事務局) 以前にも地区でというお話をいただいているので、どれだけの範囲で開催出来るのか、実情が今どういうふうに行われているのかを見させていただいて、検討させていただきたい。

(委員) 全体でやろうとすると難しい。地域を分けて、図書館だけでは難しいと思うので、学校や保育園からも話を聴き、ボランティアがどんなことができるか話をする。人として動いていかないと、ウェブサイトとか、大変だからという理由で未実施なのは残念に思う。

(事務局) 学校の図書館主任者会議があるが、ただそれはスケジュール的にタイトで、図書館の職員が参加させていただくことは時間的に無理だと伺っている。オブザーバーという形で入らせていただいたり、研修会に図書館職員も同席させていただくということができればと思う。

(委員) 全体でやろうとすると難しい。それぞれの地域が子どもたちを育てていくという姿勢で取組ができないかと思う。

(委員) ボランティアや先生にも来ていただいて、まず現状をみんなで捉えたらどうか。見守り隊という老人の方が活躍しているところもあるので、地域の人たちにも参加していただけたらいいと思う。

(委員) すごく大きなことになっていくと難しいので、結局ここでは具体的な話は無理だと思う。本格的にやっていこうと思うなら、委員会を設けたり推進委員を決めて、やれることは何かということを決めていったらいいと思う。

(会長) 今までの会議で出てきた意見というのは、主に図書館や行政が中心になった考え方がポイントだったと思うが、それだけでは進まないで、とにかく地域、家庭へも子ども読書活動推進を打ち出していくというお話だと思う。そのためには地域の見守り隊とか、実行委員会の新設とか、今までの感覚では単位を図書館と思っていたが、連区とか町内会、若しくは家庭までいくとすると、回覧板での周知とか、各町内の役員さんも巻き込んだ形での活動を検討していくというご提言と思う。組織的な子ども読書の推進という事業を分担していただける役員さんが地域におみえなのか。公民館活動もひとつあると思うが、子どもの読書ということで限定はされるが、担っていただける方がおみえかどうかをお聞きしたい。

(こども部) 地域で子どもたちを受け入れて、連区に1か所ずつ配置されている施設は児童館になる。児童館には児童厚生員という職員がおり、各児童館には小さな図書室がある。

(委員) 話がずれるが、団体貸出事業で児童クラブには団体貸出はしていないのか。

(事務局) 5人以上の読書会や児童クラブ、児童館、市内施設等を対象に団体貸出をしている。団体貸出は豊島記念資料館の別館、尾西、児童、木曽川図書館で行っている。移動図書館ほたる号でも団体貸出をしている。

(会長) 実際に町内会、連区、こういうところまで下ろしていこうとするとそれぞれを指揮する体制も整えていかないといけない。それから、それぞれ行政にはカバーするエリアがある。実際どう進めるかということは、即答出来る問題ではないように思う。懇話

会の立場では、市民の意見として提言をさせていただくということに止めさせていただこうと思う。要は、少しでも地域へ下りていくということで、その体制をこれから作っていったきたいと思う。

(委員) 読み聞かせボランティアグループの年1回の講演会の予算も少なくなっている。自分たちの力では呼べない方を講師に迎え、毎年100人以上の方が集まって聴いている。いろいろな予算が減っているので、増やせてもらえれば一番いいが、少なくともこれ以上下げないようにしていただきたい。

(事務局) 財政が厳しいため減額されているが、読み聞かせのボランティアの方限定ではなく、他のボランティアさんも巻き込んだ形で、何か対応ができないか検討したいと思う。

(委員) 一宮市は「子ども読書のまち」を宣言しているので予算をドーンと出して市全体の講演会としてもいいのではないか。子ども読書活動推進のための一宮市のひとつの行事なんだと図書館の姿勢を出したほうが聞いていただけるのではないかと思う。

(委員) PTAの連絡協議会で毎年講演会をさせていただいているが、そういうところにボランティアも巻き込んで一緒に講演会をやっただけなら、大きな成果になると思う。

(会長) ボランティア、PTAの役員、学校の先生、ありとあらゆる子どもの読書活動に携わっている皆さんを対象にした大きなイベントとして講演会並びに交流会という形で立ち上げていただく、もう1つ立ち上げてもらってもいい。

(教育文化部) いろんな講演会を作っていくというのは今の市の財政事情では現実的ではない。PTAの連絡協議会の講演会、研修会では、PTAのお母さん方が勉強になり、最後には子どもに繋がって行くように毎年テーマを変えてやっている。例えば、3年に1回読書の楽しさとか子どもが読書を好きになると成長するというようなお話をする講師を選んでいますが、その時にPTAの役員の方だけではなく、図書館関係のボランティアの方にも聞いていただくということの方が、現実的だと思う。また、ボランティアネットワークの関係の新たに組織を作るというのは大変で、全市的に一遍にすることはハードルがある。場所があり本があり、本の魅力を伝えるボランティアの方に読み聞かせをしていただく、そういう3つの要素が揃ったところから少しずつ広げていけば、あの連区いい感じでやっているよねとか、それで広がるのが自然で無理が無いとを感じる。

(会長) ボランティアの活動についても交流会についても今度の検討課題となるが、方向的にはだいたい定まっていると思う。お願いするのはそれに関連した予算だけということなのでよろしくお願いしたい。

(委員) ブックスタート強化事業の件で、4ヶ月検診時に主任児童委員やボランティアが読み聞かせの大事さを教え、図書館へ行ってくださいと説明しているが、行く行かないは本人の自由なので難しい。マタニティ教室や1歳6か月乳幼児健康診査時に親子の読み聞かせの必要性や推薦図書を紹介していくというところで、29年度からはウェブサイトやアプリから発信をしていくと書いてあるが、ウェブサイトも見ないがあるので、紙が1枚あるといいと思う。

(子育て支援課) 子育て支援サイトの昨年度の実績は、トップページで約3万件弱、アプリも約4万件強のアクセス件数がある。アプリの他に「子育てハンドブック」という冊子でも情報をお知らせしている。

(委員) 4か月検診では推薦図書を0歳向けと1・2歳向けの推薦図書をお母さんに説明している。全員が見てくれるなら問題ないが、図書館に行つて欲しいし絵本も読んであげ

て欲しいと思う。この冊子1つで皆さんが読んでくれるなら問題ないが、別にチラシがあれば見ると思う。

(子育て支援課) こちらのほうは配布済みである。取りまとめて発行しているので、図書館側でこういったものがお薦めですよという情報がいただければ掲載する余地がある。

(事務局) 子育て支援アプリのところでは図書館の情報も載せている。

(会長) 図書館サイドだけでもチラシを窓口に置く方向で検討いただきたい。

(委員) 学校からも家庭へ働きかけをしているが、いくら会議で呼びかけをしたり紙媒体で渡しても、それを聞かずに読まずに終わってしまう家庭がある。本から子どもを支えていけるんだよということを地域へ伝えていくためには、民生委員や町内会長や地域の高齢者の方が委員として入っている学校運営協議会で、状況を聞いて、どういうふうに関わりかけをしたら保護者に伝えられるかを考えていく必要があると思う。

(委員) 秋田は朝読書をして国語の学力がすごく高かったという記事が載っていたが、一宮市としてはどういうふうに取り組んでいるのか。学校単位で違うと思うが、比較資料を出していただくと学校の取組みが分かると思う。

(学校教育課) 調査はしていないが、子ども読書のまち宣言が出たときに朝の時間を使ったり、お昼の休憩時間を使ったりして、学校ごとに取り組んでいる。多くの学校は曜日で決めて読書の時間を設けていると思うが、より有効に子どもたちが読書に親しめるように、それぞれの学校が限られた時間を使って行っている。

(委員) 読書をするから国語力が上がった等の成果が上がっているのか。

(委員) ボランティアで学校にも行ったことがあるが、司書が入るようになって、昔に比べて学校図書館は遥かに充実してきている。子どもたちも前より本に触れる機会はものすごく多くなっているが、即、国語力に通じるかどうかは個人差があり、研究しないと難しいと思う。

(副会長) 先日、ほたる号の活動の様子を見に、西海戸公民館の児童クラブに伺った。そこでは1学期に1回公民館のお部屋でおはなし会をしているが、子どもたちがお話を楽しんでいるし、また児童クラブの先生もおはなし会がスムーズに運ぶように細かな心配りもされていた。地域の方も本を借りに来ていた。ただ、女性職員2人が本の入った大きなコンテナを持って出したり入れたりしているのは大変そうだったので、もう少し負担が軽くなる方法があるといいと思った。

(会長) 実際にはほたる号のリフトが今故障中ということで、予算計上して直していただけていると思っている。それでは議題2「その他」について、事務局から説明を。

(事務局) 次回の子ども読書活動推進懇話会は、平成31年2月頃を予定している。この度一宮市立中央図書館が「ビブリオバトルオブザイヤー2018」の優秀賞を受賞したことをご報告させていただく。

(会長) 皆さんに子どもと本を結ぶ積極的な活動を引き続きご推進いただくということをお願いして本日の会議を終了させていただく。

(教育長) お礼のことば。